

米国のオバマ大統領が、現職の大統領として初めて、広島を訪問した。歴史的な出来事であった。オバマ大統領は「Change（変革）」「Yes, we can（我々是可以る）」をキャッチフレーズにして、大統領に選ばれた。彼が大統領になった時、私は真っ先に、マーティン・ルーサー・キング牧師の最後の説教を思い出した。キング牧師は1968年4月4日に暗殺されたが、前夜、メンフィスの教会で下記のような説教をしている。「神は私に山に登ることをお許しになりました。私は辺りを見回しました。そしてみなさんと一緒にそこに行けないかもしれません。… 私は今晚幸せです。私は何も心配していません。私の目が主の来臨の栄光を見たのですから」。モーセがピスガの山頂に登って、神が与えてくださる約束の地を見渡した。しかし、モーセはそこに入ることを許されず、ピスガで生涯を終えた。キング牧師はモーセのように約束の地を望み見て、凶弾に倒れた。黒人のオバマ大統領の誕生はキング牧師が望み見た約束の地に入る第一歩であると信じ、オバマ大統領に期待した。オバマ大統領は2009年4月5日にプラハで歴史的な演説をした。「核兵器を使用したことのある唯一の核保有国として— 合衆国には行動する道義的責任がある。… 私は本日、信念を持って表明する。米国は、核兵器のない世界の平和と安全を追求するのだと。… この目標を達成するには、根気と忍耐が必要である。だが我々は今、世界は変わり得ないという声を気にしてはならない。『我々是可以る（Yes, we can）』と主張せねばならないのである」。世界に大きな希望を与え、ノーベル平和賞を受賞した。

今回、オバマ大統領は広島に来て、平和記念資料館を見、原爆死没者慰霊碑に花輪を献げ、演説した。二人の被爆者と話を交わし、原爆ドームを見て、平和記念公園を後にした。演説では、原爆犠牲者を追悼し「恐怖の論理から逃れ、核兵器なき世界を追及する勇気を持たなければならない。… 核兵器の廃棄に導く針路を描くことができる」と語った。

来年1月に任期が終わるオバマ大統領の政治的業績はどのように評価されるのであろうか。対外的には、アフガニスタン、イラク攻撃は收拾を見ることなく事実上の敗北となり、撤退せざるを得なかった。以後、中東はテロが広がり、IS（イスラム国）の台頭によって、混乱を極めていいる。キューバとの国交を回復したことを喜び、家族で訪問している。

国内的には、経済面ではそれなりの評価がされているのではないかと。多くの死者を出す乱射事件が続発し、銃規制を目指したが、反対派の力に押され達成できなかった。国民皆保険制度を作り、貧困者も医療が受けられる医療制度改革を目指した。オバマケアと言われ、成功したかに聞いていた。しかし、堤未果氏は『沈みゆく大国 アメリカ』で、一部の人が大きな利益を得ただけで、貧しい人々の医療の実態は何も変わっていないと報告している。オバマ大統領は命の尊厳を守り、平和を実現したいと願っているヒューマンな人であろう。しかし、大資本と利権に群がる人々によって頑強に管理されたアメリカ社会は「Change（変革）」「Yes, we can（我々是可以る）」は極めて困難な状況にあるという印象である。保有国が核の牙を砥ぎながら、核不拡散、核廃絶を言っても説得力がないことに気づき、まず、核軍縮を本気で進めて欲しい。そして、唯一の被爆国の日本は核軍縮、核廃絶に向かって発言し、行動を起こす責任がある。オバマ大統領の演説は理念的で具体性に欠けたが、広島訪問に意味があり、核なき世界の第一歩になることを期待したい。

モーセもキング牧師も約束の地を望み見ただけで、入ることはできなかった。キング牧師の師マルチン・ルターは「明日、天地が滅びようとも、庭にりんごの苗木を植える」と言った。希望を持ち、希望に向かう時に、人は真に生きる者となる。